



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

HP「辻よし子と歩む会」で検索

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず！

議会の傍聴に行きませんか

数年前から本会議や委員会の傍聴に行っています。以前は「市議会だより」やチラシを見るだけでした。最近は定例会議に一度は行くようにしています。きっかけは、友人から声をかけられた事です。

用意周到に多くの情報を集め、質問する議員。執行部と議員がやり取りを繰り返しながら話が深まります。何が是で、何が非なのか、傍聴者にも判断できるような充実した質疑応答が繰り広げられる1時間。また、やり取りなどほとんどなく、議論が深まらず、勿体ないことに持ち時間の半分も使われず、あっという間に終わってしまう議員など様々です。傍聴して初めてわかりました。

執行部と議員は意見の違いがあって当然です。違いがあるから、議論が深まり、問題点が明らかになり、より良い方法が見つかるはず。議員は市民の代弁者です。市民の声を聞き、それを執行部に届け、また、市の方針に対する自分の考えを市民に伝え、是非を問う事が大切な仕事だと思います。議会ではお互いに相手の人格や意見を尊重し、内容が深まるような議論をしてほしいと思います。

最近、都議会のニュースで、知事への質問に全て職員が答えている場面がありました。あきる野市の6月の定例会議でも同じような場面があり、大小の差はあれ、政治の世界は同じだなと改めて感じました。

一人でも多くの方が傍聴し、自分で見て、聞いて、どのような雰囲気の中で会議が行われているか、肌で感じることで、市政がより身近になると思います。“百聞は一見にしかず”是非一度、議会の傍聴に行ってみませんか。

(A・E 小川在住)



答弁しない市長！ 答弁できない市長？

議会は、市民から選ばれた議員が、市民に成り代わって市民の命と暮らしを守るために質疑を通して合意形成して市政を進行させていくものであると考えられる。しかし、議会の傍聴していつも思うのは、現状を分析し、他市と比較したり、様々な法令や規則に照らし合わせ、矛盾や齟齬^{そご}を指摘して市民の利益のために改めたり、新規に始めたらどうかという意見が、俗に言う反対派から出されても多数派を占める自公議員による党派丸出しの対応により、残念ながら抹殺されてしまうことが多く、市民の利益につながりにくくなっていることである。

今回の傍聴で更に驚いたのは、S議員が市長に対して「立場を超えた建設的な議論が望まれるが、市長は、これまで立場の違いがあるとされる議員からの提言や反対意見をどのように受け止めてきたと自己評価するのか」「心理的安全性という視点において市長が取る姿勢は、市長のもとで働く職員への影響があると思うが、このことをどのように捉えるか、また、留意していることはあるのか」という質問をした。当然のことながら行政運営の長である市長が答弁するものと思いきや、部下である企画政策部長がこのこと現われ、答弁したのである。市長は、自席に座ったまま、まるで他人事のような表情でや

り過ごすという事態、明らかに具合の良くないことは、部下にやらせるという構図。これが、今のあきる野市の劣化した市政運営の現状かと、がっかりした。職員も気の毒である。国会における低支持率の岸田内閣でもそのような対応はしていないのだから……。

(S・N 山田在住)

無料弁当配布を4年間続けています

立川を拠点に生活困窮者の支援をしている市民団体「さんきゅうハウス」では、コロナが拡大し始めた2020年5月から毎週土曜日、無料弁当配布を始めました。この6月で4年程になります。当初は20食でしたが、現在は40食ほど作っています。

コロナ前、「さんきゅうハウス」では、路上生活者など生活困窮者に無料のお昼ご飯（お風呂もセットで）を提供していました。その頃は、ほとんどが60代以上の高齢者でした。しかし、お弁当の利用者は20代から40～50代の若・中年層の方も多く来られます。「仕事が少なくなり、明日から来なくてよいと親方から言われた。」「首にはなっていないが、シフトが減られ収入が激減。」「バイトをしていた飲食店がつぶれ、学費が払えない。」など、ほんの一例です。コロナが終わっても、支援を必要とする方達は減りません。不安定、劣悪な雇用状態がコロナ禍で顕在化したということでしょう。トヨタなど大企業では内部留保金の空前的増加、従業員給与の大幅アップなど、景気のいい話がありますが、別世界です。減税4万円、ガス・電気代費用補填など場当たり的な策ではなく、格差を抜本的に是正する再分配策を考えるべきです。

お弁当の費用は支援者からの寄付金です。「さんきゅうハウス」の支援者は高齢化し、カンパの額も少なくなっています。円安等による諸物価の高騰の下、いつまで続けられるか……。皆様の支援をお願いします。（T・N 二宮在住）

カンパ振込先 郵便振替
口座番号 00100-4-487905
口座名 さんきゅうハウス

無党派
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在9年目。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

棚田の保全活動

市民が稲作を続けている棚田の保全活動をご紹介します。この棚田は五日市地区の山のふもとにあり、山に降った雨が少しずつ流れ込むため通年湿った環境です。田んぼの所有者は90歳を超え、かつて教えを受けた市民有志により稲作が続いています。カエルや蛭、オケラといった田んぼの生きものに直接触れることができるため、自然体験の場を求める親子が都市部からも参加し、畔づくり・田植え・稲刈りなどに協力しています。大人たちが作業する間、子どもたちは畔や田で虫を捕まえ泥まみれで自由に遊び、本当に良い笑顔です。

メダカ・ゲンゴロウ・トノサマガエルなど、かつては身近だった生物が絶滅危惧種になっていることをご存じでしょうか？ これらの生物は稲作伝来の時代から、人が作り出した「田んぼ」という環境を棲家とし適応進化し、田んぼとともに生きて来たため、昔ながらの田んぼが無くなると他の環境に適応するのは難しく、急速に数を減らしました。

耕作地の形が不揃いで一年中湿った棚田は、機械を入れるのが困難なため生産性が低く、真っ先に放棄されるのが普通でしょう。しかし、地域の生物多様性の保全や直接体験の場という側面からは守るべき価値のある環境であるはずで

先日、この棚田が残されてきた理由の一つは、誰もお金と結びつけてこなかったからではないかという話題になりました。効率や経済的な損益と切り離され、田んぼの存在価値や活動の喜びを共有し合ってきたからこそ、続いているのではないかと。これからも、田んぼに来た子ども達の笑顔と、大人同士のつながりや癒し時間を大切にしたいからこそ、活動を続けていこうと思います。

（K・T 秋川在住）

「辻よし子と歩む会」

会員募集中！

年会費：1,000円（カンパ歓迎！）

郵便振替

加入者名 辻よし子と歩む会

口座番号 00140-9-430053

ゆうちょ銀行(店番)〇一九(ゼロイチキュウ)店(019)

当座 0430053

